

平成 29 年度「学ぶ力」育成プログラム		学校番号：31002 学校名：札幌市立中央中学校		
改訂のポイント		○教師が授業の学習課題を生徒自身がつかむような工夫をし、自分ごととして課題解決に取り組むような授業展開を構築する。 ○自分の考えと仲間の考えを比較したり、話し合いによって新たな気づきを得たりする経験を多くさせる。		
項目名	項目内容	項目内容の具体		
目標	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	☆授業での学習の課題（めあて）を自分のものにし、授業の終わりに課題を解決（めあての達成）から「学ぶ意欲」を高める。 ☆少人数学習グループなど、他者との協働的な学習形態から、自分の考えとの比較を行い、整理し、まとめることができる。		
「学ぶ力」に関する成果や課題	学ぶ意欲	【昨年度の具体的な取組】 様々な学び方を体験させることで、「学ぶことの楽しさ」や「できることの楽しさ」などの充実感を高める工夫をした。	【成果】 ⇒意見の違う人ともよく話し合おうとしている。(36.0%)	【課題】 ◇授業中、自分で疑問やめあてをもって学習に取り組もうとしている(28.5%)
	思考力・判断力・表現力等	【昨年度の具体的な取組】 学習課題に対し、既習事項を基に思考・判断することを促す学習指導を行った。	【成果】 ⇒意見を書くときにはその理由をはっきりさせて書くことができている。(41.4%)	【課題】 ◇授業中、自分の意見を進んで発言している。(22.0%)
	基礎的・基本的な知識及び技能	【昨年度の具体的な取組】 基礎的・基本的な学習内容を習得しようとしているが、家庭学習の習慣化や計画性、反復的な学習の継続的な取組に欠ける。	【成果】 ⇒分からないことは、自分で調べてはっきりさせようとしている。(37.2%)	【課題】 ◇普段から、計画を立てて学習している。(16.3%)
今年度の具体的な改善策（取組）	取組の最重点	【取組の共有】 学習課題を生徒自身がつかむ授業構築の工夫を行い、他者との協働的な学び方を通して学ぶ意欲を高める。		
	A「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実	○学習する事柄の必要性（学びの必然性）を生徒が感じるような授業導入の工夫を行うこと。 ○学習課題を生徒自身が立てて、課題解決に迫る授業展開を検討すること。 ○少人数学習グループなど、他者との協働的な学びを通して自分の考えを述べて、他者の考えと比較する学修活動を行うこと。		
	B「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実	○授業導入において、既習事項や日常経験とつなげて「問い」や「疑問」を生じさせて意欲を喚起すること。 ○自分の考えを書く場面で、教師の机間指導によって個別支援を行うこと。 ○他者との意見交流で、間違っても傾聴する環境の醸成と教師の形成的評価や課題解決後の次時へのつながりを明示		
検証の方法	各種調査や子どもの自己評価指標の活用	○札幌市「学習などについてのアンケート」（7,12月）の関連項目での見取り ○本校独自の「各教科の学習指導に関するアンケート」（7,12月）の関連項目での見取り ○本校独自の「校内研修会」での各教科の研究授業実践からの見取り		